

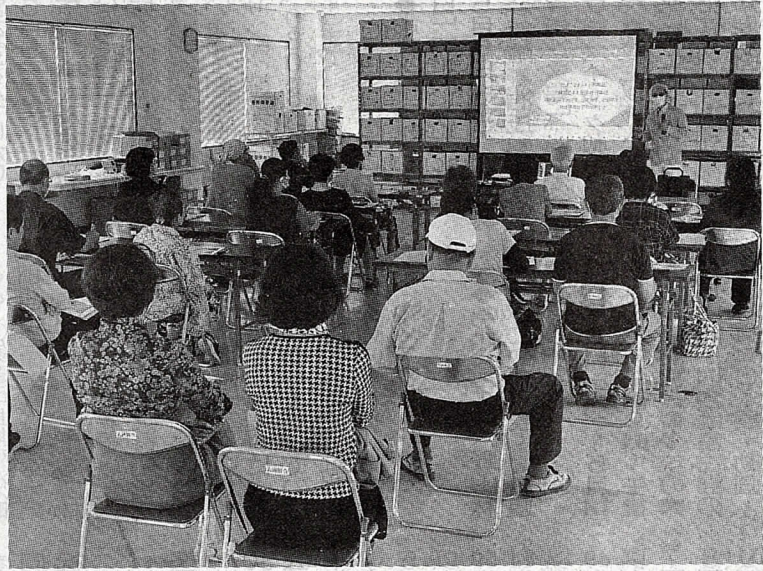
# 農薬による健康影響で勉強会

## 宮古島地下水研究会

### 水道水からの微量検出受け開催

市内で採取した水道水から微量の農薬成分が検出されたことを受けて、宮古島地下水研究会(友利直樹、前里和洋、新城竜一共同代表)は28日、市民や市議らと「ネオニコチノイド系農薬暴露による健康影響」をテーマにした勉強会を市内の会議室で開催した。

勉強会では、同研究会の



農薬暴露による健康影響などをテーマに行われた勉強会＝28日、県農業共済組合宮古支所

共同代表で医学博士の友利さんが「ネオニコチノイド系農薬等による地下水複合汚染と健康影響の危機―発達障がい急増および生殖障害との関連。そして沈黙の島、奪われし未来―」の演題で講話した。

宮古における発達障がい児童生徒が急増している要因の一つとして、水道水から検出された同系農薬成分の影響なども考えられることなどが示された。

友利さんは、市環境衛生局による地下水調査結果などを示しながら、島民が日々、飲料とする水道水の

複合汚染が現実であることを強調した。

さらに、発達障がいの増加については「遺伝や認知度の増加、診断基準の変更のみでは説明できない。強力な環境因子として『ネオニコチノイド系農薬』がある。その使用量の増加も怪しい」とした。

その上で、農薬暴露と胎児の発達神経毒性そして発達障がい発症の関連を調べるために妊婦や子の前向きなコーホート疫学調査(宮古島スタディー)の実施の必要性を訴えた。

参加者に対して、友利さんは発達神経毒性、生殖毒性リスクの高い化学農薬の使用の中止を求めた上で「現状の問題について、行政、専門家が一体となって取り組む必要がある。放置すると『水が飲めない』『人が住めない』『沈黙の島になりかねない』と警鐘を鳴らした。